

## 『紳士録ってなんでしょ？』

平塚図書室長 大石 不二夫

昨年度から図書室長を拝命しました。サーブに徹する所存ですが、どうかご指導、ご鞭撻をお願い致します。さて、図書館といえば、アレキサンドリアの図書館が最古の巨大施設といわれている。かのクレオパトラの先祖であるプトレマイオスが、アレキサンダー大王の急死により、インド征服を断念し、3人の重臣と欧州とアジアに跨る広大な版図を四分した。彼はエジプトを得て、築いた大港湾都市－アレクサンドリアーに巨大な図書館を築いた。筆者は材料を専門とするが、その研究テーマの中に、「文化財の保存と修復」を含んでおり、本の紙の劣化とその防護法の研究もしており、かの図書館に大に関心がある。当時のパピルスも紙の一種である。

ところで、図書館に常備されてる本の一つに、「紳士録」がある。紳士の定義は何でしょう？いったいどうやって、掲載者を選ぶのか？インチキ紳士録では、大金を出した人だろうが、まともな紳士録の多くは、個人や団体からの推薦で決めているのか？いずれの紳士録も値段が高い。個人で買うには程遠いが、まともな紳士録なら、初対面の人の信用調査に最も有効であろう。その一方、「あなたをうちの紳士録に掲載したいのですが？」と、電話が来たら「要注意」である。喜んで承諾すると、「つきましては、最低1部購入願えますね？」と来る。もし「お幾らでしょうか？」と、尋ねると、「ハイ、定価25万円ですが特別20万円で結構です。先払いです。」とくる。友が引っ掛かった。『振り込め詐欺』のルーツだ。ところが二年前、筆者に電話がきた。「日本紳士録編集部ですが、あなたを掲載したいのですが、いかがでしょうか？」ときた。「エ！ーどどこの出版社ですか？」「弘潤社です」と。

ああそれなら知ってる。福沢諭吉が日本で初めて刊行した最古の紳士録だ。その78版だそう。 「どなたの紹介？推薦ですか？」と問えば、「いや、推薦は受け付けません、うちの編集部で選ぶのです。」とのこと。「出たら買わなければいけないの？」と恐る恐る聞いた。「買わなくてもいいです」と即答があった。なら詐欺ではないし、弘潤社には会議で行ったことがあるし、慶応大学の同窓会として著名である。「はい、お受けします。福沢諭吉を尊敬していますし」と答えて、すぐ平塚図書室に直行し、「日本紳士録」のかなりの旧版を扱った。神大の身近な人をひいてみた。理学部創設の主役であった、藤原鎮男先生は載っていた。ほっと胸をなで下ろす。現存する人だけだが、そうそうたる人々ばかりだ。私如きでは申し訳ないが、来るは拒まず去るは追わずだ。ところが、記入の用紙が届いてまた驚いた。専門や趣味は当然として、生年月日はもとより、誰の何男で、妻は誰の何女か？自宅の住所と電話は？と、そこまで書くの？。正に個人情報だ！でも例文通り書いた。掲載後に金持ちと間違えられて、寄付の強制やぞろぞろむしんに來られては大変！という恐れが、頭をよぎったが、まあいいや、その時は断ろう。それから半年後に本当に掲載された。せっかくだから、十万円は痛いが一冊注文した。待ってた本が届いた。大学に着いたが重すぎるので、自分の掲載頁だけコピーして、家内と社会人となっている2人の息子が来た日曜日に見せた。3人とも「そお」というささやかな反応だ。「まあいいや」と、冷蔵庫から冷えた缶ビールをつまみ出し、喉に流し込んだ。「このビールさえあれば、何もいらナイよ！」だ。

(理学部教授・材料化学)

## 『仕事の裏切り－なぜ、私たちは働くのか－』

ジョアン・キウーラ著 中嶋愛訳 金井壽宏監修  
翔泳社 B366-117 366-35

川村 哲也

グローバル化の進展とともに職場をめぐる環境や雇用条件などに大きな変化が生じてきている。働き方の多様化が叫ばれるとともに、格差社会や階級社会といわれるような正規・非正規雇用の問題、フリーターやニートさらにはワーキング・プアなどさまざまな社会的・経済的問題が噴出している。そうした現在において本書は、仕事あるいは働くということについて、哲学的、歴史的に検証したものである。

本書の認識の出発点は「私たちは、仕事が生産にもたらしてくれるものを過大評価している」(9頁)というものだ。良い会社に入ることがその後の良い人生を保障してくれるという世界はもはやない。ならば私たちはいかに生きるべきか。本書はこのように問いかける。「いかに生きるべきか」「仕事の意味とはなにか」とはたしかに青臭い問いではある。またそうした問いに普遍的な解答などあるはずもない。しかし、誰もが一度は考えてしまうような問いでもあるだろう。

こうした問題を考察するにあたって、キウーラはアリストテレスやマルクス、アーレントといった古典を読み直し、仕事の意味についての歴史的変遷を哲学的に分析する。それは、「呪い」から「天職」へ、としてまとめられる。これは、以前の隷属制度下での仕事からいかにして自己実現の手段としての仕事になったのか、という変遷を辿ることである。そして雇用という制度のもとでの仕事の意味について、経営学を用いつつ歴史を参照しながら分析を行う。人生の大半を支配する仕事に対する批判的なまなざしとともに、人生の意味とはなにか、といった問いについてさまざまな角度から考える(先述したように普遍的な「解答」などないのだが…)。また彼女の実体験や多くのフィールドワークの成果も盛り込まれ、「その先」を展望しようとする。さらに本書では、読者への質問が提示されもす

る。例えば――

もしあなたが大学を卒業したばかりの独身で、次の四つの仕事をオファーされたとしたらなにを選択するだろうか？

1. 会計事務所での高収入の仕事
2. 環境団体の「グリーンピース」での仕事
3. 公務員の仕事
4. アスピンのスキーリゾートホテルで冬季限定のウェ이터の仕事(47頁)

――勿論、選択は個人の価値観によって異なるし、また正しい解答などというものはない。本書が提供するのはいくまでも「新しい雇用の現実のなかで、人生における仕事の位置付けを考える出発点」として「仕事の意味を考えること」(414頁)である。

本書は厳密な意味で研究書ではない。また自己啓発書でもない。キウーラによれば「社会科学と人文科学の狭間にある問題」(11頁)を扱った本ということである。解答がないようにみえる問い、結論のはっきりしないような問い、について、ウダウダと考えることはめんどくさそうだと、と思われるかもしれない。だがそのように大上段に構えなくても、本書はある種の現代社会論とも読みうるように、取り扱われるトピックスは盛りだくさんであり、哲学的な思考と具体的な事例がバランスよく配置されており容易に読み通すことができるだろう。

本書を読み終えた後、対照的な次の2冊、ダニエル・ピンク『フリーエージェント社会の到来』(池村千秋訳、玄田有史解説、ダイヤモンド社)とデイヴィッド・K・シプラー『ワーキング・プア』(森岡孝二ほか訳、岩波書店)を読み進めてみるのも良いと思う。

なお、本書は、2000年、アマゾン・コムが選ぶ「ベストビジネス書」にも選ばれたそうである。

(経済学部准教授・社会経済学)

## 『非対称の起源－偶然か、必然か－』

クリス・マクマナス著 大貫昌子訳  
講談社 B490-3713 491.37-18

竹内重夫

本書は“Right Hand, Left Hand”として2002年に出版されたものの翻訳である。講談社のブルーバックスのシリーズで、しかも題名が題名なので、数学か物理など特定の分野以外の人からは敬遠されるかもしれない。しかし、例えば英国の結婚式では新郎が祭壇に向かって右側に立つといった社会のしきたりや、その他、左右が関係する文化的な事柄と、ヒト脳の働きの左右性、ひいては極微の世界の非対称性まで、およそ世の中の右と左に関係した事柄について、博引旁証し、いわゆる文系人間でも面白く読めるものとなっている（その意味では、原題をそのまま「右手、左手」と訳しておいた方が良かったのかもしれない）。原書を読まずに、いささか軽率であるが、この種の本で専門家以外でも手軽に読めるものは殆ど見あたらないこともあって、この機会に本書を紹介しておきたい。

全13章からなる本書の第1章は導入部で、人間の内臓の形や配置が左右で異なること、大脳半球の左右で働きの違いのあること、ヒトの右利きと左利きなど、身の回りで見られる左右の違い（非対称性）から話が始まる。第2章「右手は左手より優れているか」では、右と左を巡る文化論が紹介され、第3章「右と左の意味論」で、それまで扱われてきた右あるいは左ということ定義するための、簡単な幾何学的な記述がある。第4章「右と左の起源」では、主に左右に関する心理学や、人における左右性の感覚の発達などが述べられている。

第5章「心臓はなぜ左にあるのか」で、脊椎動物の内臓の非対称的な形や配置の発生についてニワトリやネズミの胚を用いた最新の成果が紹介されている。が、高校「生物」では扱っていない話題なので、詳しい解説なしには判りにくい部分かもしれない。また、第6章「アミノ酸は左利き」は、アミノ酸分子の非対称性とその起源に関する仮説が紹介されている。第7章「右と左を決める遺伝子」で、右利き左利きに関する著者の遺伝仮説が紹介されており、

高校で遺伝を学んだことのある人にとっては、それほど難しくはない。しかし、乱暴ではあるが、特別に興味を持つ人以外は、第5～7章は読み飛ばしても良いし、あるいは、この部分は後回しにして、第8章～第11章の後に、非対称性の物質的起源であると、著者の考えている分子や生物などの非対称性に戻って読んでもよいだろう。

第8章「脳の非対称性」、第9章「言語に特化した左脳」、第10章「利き手と社会」および第11章「左利きの苦悩」は、脳の働きの非対称性と利き手の関係、脳の機能の非対称性の意義とその起源、あるいは、文字を書くのに右から書くか、左から書くかと言った違いが脳の非対称性が関係するか否かについて論じ、更にはヨーロッパでは1920年代ころから左利きが増加しているが、約10%で頭打ちになっていること、アフリカ、アジアでは左利きが少ない等々、右と左を巡る社会論、文化論など、著書の博学ぶりが披露されている。

第12章「人全て対称なり」では、民芸や美術の世界、あるいは数学や物理学で対称性が重んじられてきたこと、それを認識する脳の非対称性との関係が論議され、最後の13章「壮大にして微小なる我が宇宙」で、量子世界で見られる非対称性から人の脳の非対称に至るまで統一的に理解しようとする著者の夢が語られて終わる。

専門的に見ると、小さな点でいくつか首をかしげる部分はあるものの、全体としては読みやすい翻訳であり、理科学的な話は苦手だと思こんでいる人々に一読を薦めたい。

更に左右性について読みたい人には、マルティン・ガードナー著 坪井 忠二他訳「自然界における左と右」紀伊国屋書店、ヘルマン・ヴァイル著 遠山 啓訳「シンメトリー」紀伊国屋書店（やや専門的）がある。英語の勉強をかねて I. Stewart and M. Golubitsky “Fearful Symmetry -Is God a Geometer?” Penguin Books (1992) (やや専門的) を読むのも良いかもしれない。（理学部元教授・発生生物学）

モンタヌス『オランダ東インド会社遣日使節紀行』

ドイツ語訳初版 1669年

Montanus, Arnoldus, 1625-1683

Denkwürdige Gesandtschaften der Ost-Indischen Gesellschaft in den Vereinigten Niederländern an unterschiedliche Keyser von Japan darinnen zu finden ... / durch Arnold Montanus. -- Zu Amsterdam : Bey Jacob Meurs, 1669. -- [8], 443, [9] p., [25] leaves of plates : ill., map ; 32 cm. Spine title: Montanus Japan. Title-page in black and red. Full calf.

1639年、江戸幕府による鎖国令が貫徹されたあとで日本について唯一の情報源としてヨーロッパで歓迎されたのが、オランダ人アルノルドゥス・モンタヌスの著書『オランダ東インド会社遣日使節紀行』Gedenkwaardige Gesantschappen der Oost-Indische Maatschapy aan de Kaisaren van Japan, 1669. (所謂、モンタヌスの『日本誌』) 正しくは、『連合ネーデルランドにある東インド会社の、日本歴代皇帝のもとへの記憶すべき使節の数々の報告』である。このことは、ダニエル・デフォーオ (Daniel Defoe, 1660-1731) が、彼の蔵書目録に『日本誌』を取めたこと、またジョナサン・スウィフト (Jonathan Swift, 1667-1745) の著書『ガリヴァー旅行記』(1726年) 第三篇「日本への渡航」の記述にモンタヌスの影響が認められるという先学の諸研究からも理解できる (島田孝右編『モンタヌス「日本誌」英

語版別冊解題・索引』39頁以下)。本学図書館では、これまでにオランダ語版初版 (1669年) 英語訳初版 (1670年)、フランス語訳初版 (1680年) を蒐集し、今回、ドイツ語訳初版を貴重書庫に収めることで、全初版を所蔵することになった。

フィリップ・フォン・ツェイゼン (Philipp von Zesen, 1619-1689) が翻訳したドイツ語訳初版の出版地は、ドイツではなくアムステルダムでオランダ語版初版と同様、同年にムールスが出版している。本書の基本的な構成は、口絵 (口絵の構図はオランダ語版と異なっている)、扉、献辞、地図、本文、索引から成り、支持体 (single cord) は5バンド、天地の花切れ (headband) と共に本体に結合して堅固である。本文中には、「足継ぎ製本」で折り込まれた地図を含む歴史的に史料の価値が高い銅版画が25点 (オランダ語初版25点、英語訳初版25点、フランス語訳初版26点) と多数の銅版画の挿絵がある。装丁は、17世紀、コンテンポラリー (Contemporary) の全総革装でフオリオ仕様、表紙には蔵書票Ex Librisが貼付されている。また見返しにある手書きの献辞から本書がシュトラスブルクの印刷家で出版者、そして書籍販売業者でもあったシュテューデル (Josias Städel, 1648-1700) からオーストリアのヨハン・クリストフ・バルテンシュタイン男爵 (Freiherr von Johann Christoph Bartenstein, 1689-1767) に贈呈されていること、また上述の蔵書票Ex Librisにはバルテンシュタイン男爵家名が刻まれていることから、かつて本書がバルテンシュタイン家蔵書の一冊だったことを窺い知ることが出来る。バルテンシュタインは、オーストリア皇帝カルル六世の治下では例外的に市民出身の重臣で、皇帝の死後は、皇帝の娘である女帝マリア・テレジアからも信頼され、オーストリアの政治改革、外交政策に貢献して歴史にその名を刻印した政治家であったことは、本書の資料的価値に何らかの重みを添えるのかもしれない。 (図書館総合サービス課 吉田隆)



ドイツ語訳初版1669年



外国語学部国際文化交流学科開設記念  
神奈川大学図書館所蔵貴重書にみる  
『日欧文化交渉史』展を開催

2月1日(木)から2月6日(火)まで、紀伊國屋書店新宿本店4階「紀伊國屋画廊」において、図書館主催による外国語学部国際文化交流学科開設記念『神奈川大学図書館所蔵貴重書にみる日欧文化交渉史展』を開催しました。この展示会は、昨年10月にイセザキ町の有隣堂ギャラリーで紹介した資料を一部見直しをして展示したものです。会場の広さの都

合で横浜関係の資料を割愛せざるを得ませんでしたが、新たにフローレンツやチェンバレンの著書を追加して充実した内容としました。また前回同様、鳥越輝昭外国語学部教授(国際文化交流学科主任)によるフロアレクチャー「見ぬ世の人を描くには－『蝶々婦人』のことなど」を行いました。今回は場所がら多くの入場者があり、訪れた人は熱心に資料に見入っていました。

17世紀以降、日欧文化交渉史は日本の歴史を見る重要な視点となっています。展示では、本学図書館が所蔵するモンタヌス「オランダ東インド会社遣日使節紀行」、ケンペル「廻国奇観」、アンペール「幕末日本図絵」等の日本研究を通して、日本と欧米との政治的、社会的、文化的交渉史を紹介しました。

織豊時代から徳川時代にかけての約100年間の日本の歴史を記述した『オランダ東インド会社遣日使節紀行』Gedenkwaardige Gesantschappen der Oost-Indische Maatschapy aan de Kaisaren van Japanは、1669年にオランダ語初版が出版されました。更に同年にはドイツ語訳初版が、1670年には英語訳初版、1680年にはフランス語



訳初版がそれぞれ出版されています。今回はそのうちオランダ語初版、英語訳初版、フランス語訳初版を展示しました。展示には間に合いませんでしたが、つい最近ドイツ語訳初版も購入いたしました。(4ページ「本学の貴重書紹介」参照) 著者アルノルドゥス・モンタヌス Arnoldus Montanus 1625-1683は一度も日本に来たことはありませんが、本書には想像で描かれた20数枚の見事な銅版画の挿絵が折り込まれています。これらの銅版画を、英語訳初版から複製し額装して展示しました。

このモンタヌスの『オランダ東インド会社遣日使節紀行』は、後の日本研究者に大きな影響を与えることとなります。しかしながらモンタヌス以降のケンペル、シュンペリー、シーボルト、アンペール等の諸著作を眺めると、日本研究に直線的な流れがあるとは言いがたい様々な系譜、様々な著者と著作の内実が互いに影響または連鎖しあい、深化しあって、日本の文化の多面的側面が明らかにされていることは否定できません。今回の展示で、その一端を感じ取っていただけたのであれば幸いです。

# 学術情報をめぐる今後の課題と方向性について

2004（平成16）年4月に発足した学術情報委員会は、同年10月に総合メディア委員会からの四つの諮問について答申した。1. 学術情報の収集・保存に関する基本方針の確立について 2. 研究所所蔵資料目録のデータベース化について 3. 学内刊行物（紀要、学位論文等）のメディア化、及び発信について 4. 学生に対する学術情報検索研修について、である。これらを踏まえ、図書館運営委員会とも連携して具体的な予算の要望を行ない、2006年度は研究所所蔵図書の見直しと入力に着手し、また新規データベースの導入を実現した。

今後は、更に答申を具体化するため以下のように取り組んでいく。

## 1. 学術情報の収集・保存について

データベース、電子ジャーナル等の電子資料は、いまや大学における教育・研究活動に欠くことのできない学術情報となっている。本委員会では、提供の場である図書館における取り組みを中心に、本学として、より高度な学術情報サービスを提供するために、データベースの整備と電子ジャーナルの導入を推進してきた。今後は、更に二次資料のデータベースから一次資料に連動するシステムの構築や、それらの電子資料の管理体制整備が重要であると考えられる。

これらについて、引き続き図書館運営委員会と連動しながら取り組み、図書館の電子図書館的機能を備え学術情報をトータルに扱う総合学術情報センター機能の充実を図ることにより、体系的な学術情報の収集・保存を図っていく。

## 2. 研究所所蔵資料目録のデータベース化について

各研究所所蔵資料目録のデータベース化については、過去のデータのない資料についての整備（見直しと入力）の必要性を指摘し、2カ年計画でのデータ化（見直しと入力）予算が認められ、整備に着手した。

ただしこの事業を進めるなかで、当初調査時には不明であった日本常民文化研究所の寄贈による未登録所蔵図書約2万冊の存在が判明し、各学部・大学院において保管・運用している部局図書の一部についても見直しと入力を必要とする図書の所在が明らかとなってきた。この処理については今後実態を調査しデータ化の検討を進めていく。

これら全てが整理されることにより学内の全ての資料の所蔵検索が可能となり、全学規模の学術情報データベースが構築されることとなる。

## 3. 学内刊行物(紀要、学位論文等)のメディア化、及び発信について

学内刊行物のメディア化と発信は、国立情報学研究所(NII)への紀要の所蔵登録に一部参加しているが、NIIが構築を推進している各大学や研究機関による学術情報発信「機関リポジトリ」の構築という大学としての情報発信の体制整備が、総合学術情報センター機能のもう一方の重要な側面である。NIIでは、

これまで推進してきた「機関リポジトリ」の構築において、2005年度から「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業—機関リポジトリ構築・連携支援—」委託事業として資金援助を開始し、全国で57大学が事業を展開している。本学としても、こうした動向を踏まえ、紀要の見直しと入力などと併せて、著作権処理、データ化を前提としたアブストラクトの作成、キーワード設定等、本学独自の発信機能の整備について早急に検討を進める。

学位論文については、引き続き学内の収集管理体制の整備を進め、学位論文の目録データ化、及びOPAC検索システムの整備を行っていく。

## 4. 学生に対する学術情報検索研修について

2006年度は、FYSにおいて「第6章 資料や文献を調べ情報を収集する—図書館の利用と情報検索—」が設けられ、学生に対する学術情報検索研修の充実が大きく進展した。今後は、その定着と改善が重要である。2年次以上については、これを補うための図書館におけるガイダンスを継続すると同時に、FYSとの連動を踏まえたゼミ単位の情報リテラシーガイダンス、オンラインデータベースセミナーなどを計画的に開催し、更に、電子情報をめぐる広報活動の一層の推進を図ることが必要である。

## 5. 高度な情報サービスの提供に向けて

今後は、引き続き図書館の学術情報センター的機能を強化し、学術情報の高度化、国際化、学際化に対応しながら、より高度な情報サービスの提供に向けて検討する必要がある。この場合において、オープンアクセスジャーナル化や学術情報リポジトリなど、欧米における学術情報提供の動向、電子資料の管理体制の整備、充実に即した利用者への情報リテラシー教育、学術雑誌の電子ジャーナルへの切り替え、購入費用のコンソーシアム参加による抑制、パッケージの改廃による最適化プランを検討するなど予算の効率的運用と情報提供の総合的促進に留意し検討することが重要である。

以上  
(学術情報委員会資料抜粋)

# BOOK LIST

## ベストセラー図書コーナー

横浜図書館では、最近話題になった図書、ベストセラー図書を集めたコーナーを設けています。場所は、1階開架閲覧室の就職・資格本コーナーの横です。ここには、1か月に3回位のペースで、今話題になっている本を配架しています。

- ・2006年11月20日～2007年2月28日に配架した図書。(受入日順)
- ・配架した図書は、4週間位ベストセラー図書コーナーに置いた後、通常の開架閲覧室に戻します。

タイトル	著者	出版社	出版年	請求記号
3日で運がよくなる「そうじカ」(王様文庫)	舛田光洋著	三笠書房	2006.10	B159-409
ツキを呼ぶ「トイレ掃除」 : 宝くじ当選!理想の人と結婚!赤ちゃんができた! (Makinook)	小林正観ほか著	マキノ出版	2006.10	B148-118
霧の訪問者 (講談社ノベルス)	田中芳樹著	講談社	2006. 8	B913.6-4365
λ(ラムダ)に歯がない(講談社ノベルス)	森博嗣著	講談社	2006. 9	B913.6-4364
生き方: 人間として一番大切なこと	稲盛和夫著	サンマーク出版	2004. 8	B159-414
治す・防ぐ・若返る健康医学事典: 食べ方+運動(こころ力・脳力編)	日野原重明総監修	講談社	2006.10	B490-1-3724
治す・防ぐ・若返る健康医学事典: 食べ方+運動(からだ力編)	日野原重明総監修	講談社	2006.10	B490-2-3724
病気になる人は知っている	ケヴィン・トルドー著; 黒田真知訳	幻冬舎	2006.11	B490-3731
北前船の事件(はやぶさ新八御用旅)	平岩弓枝著	講談社	2006.11	B913.6-4-4386
中原の虹(第1巻)	浅田次郎著	講談社	2006. 9	B913.6-1-4310
中原の虹(第2巻)	浅田次郎著	講談社	2006. 9	B913.6-2-4310
藤沢周平未刊行初期短篇	藤沢周平著	文藝春秋	2006.11	B913.6-4390
金の言いまつがい: あらゆる人の心にはジャージのジョージが隠れている。	ほぼ日刊イトイ新聞[編]	東京糸井重里事務所	2006.11	B810.4-214
銀の言いまつがい: シャンプインリンズーカリンブインチャンスーカ	ほぼ日刊イトイ新聞[編]	東京糸井重里事務所	2007. 1	B810.4-215
アメリカ経済終りの始まり: 脱ペーパーマネー経済時代の超資産運用論	松藤民輔著	講談社	2006. 9	B338.1-492
日本人としてこれだけは知っておきたいこと	中西輝政著	PHP研究所	2006.10	B302.1-346
一瞬で自分を変える法	アンソニー・ロビンズ著; 本田健訳・解説	三笠書房	2006.11	B159-422
車いすのバティンエ: 涙があふれて心が温かくなる話	ニッポン放送「うえやなぎまさひこのサプライズ!」編	ニッポン放送	2006.11	B916-680
使命と魂のリミット	東野圭吾著	新潮社	2006.12	B913.6-4411
小悪魔な女になる方法プレミアム: これで、めっちゃモテ★ひとり勝ち	蝶々XCHOCHO著	大和出版	2006.12	B159-421
宇宙が味方する経営	伊藤忠彦著	講談社インターナショナル	2006.10	B335.04-168
あなたの心を守りたい: 女性医師が現場でつかんだ心の危機管理術	館有紀著	幸福の科学出版	2006.10	B490-3760
ウェブ人間論	梅田望夫, 平野啓一郎著	新潮社	2006.12	B401-784
構造改革の真実: 竹中平蔵大臣日誌	竹中平蔵著	日本経済新聞社	2006.12	B332.16-1178
暗黒神殿(カッパノベルス)	田中芳樹著	光文社	2006.12	B913.6-12-3928
カクレカクリ: An Automaton in Long Sleep	森博嗣著	メディアファクトリー	2006. 8	B913.6-4445
小泉官邸秘録	飯島勲著	日本経済新聞社	2006.12	B312.1-589
敗因と	金子達仁, 戸塚啓, 木崎伸也著	光文社	2006.12	B783-520
小説のだめカンタービレ	二ノ宮知子原作; 衛藤瀧脚本; 高里椎奈著	講談社	2006.12	B913.6-4449
日本の決意: 今こそ吉田松陰の「草莽崛起」(そうもうっき)に学べ	清川栄太著	ヒューマンアシエイツ	2006.12	B304-1326
還らざる道	内田康夫著	祥伝社	2006.11	B913.6-4448
絶対、わが子は「英語のできる子」に! : 後悔しないために知っておきたい、英語教育の新常識	坪谷郁子著	PHP研究所	2006.11	B830.7-256
η(イータ)なのに夢のよう(講談社ノベルス)	森博嗣著	講談社	2007. 1	B913.6-4466
海坂藩大全(上)	藤沢周平著	文藝春秋	2007. 1	B913.6-1-4467
海坂藩大全(下)	藤沢周平著	文藝春秋	2007. 1	B913.6-2-4467
不都合な真実: 切迫する地球温暖化、そして私たちにできること	アル・ゴア著; 枝広淳子訳	ランダムハウス講談社	2007. 1	B451-351
人生後半からの「好きな仕事」の見つけ方: プロキャリアカウンセラーと一緒に探そう: 今度こそ、楽しい「自分時間」で生きている	柏木理佳著	PHP研究所	2006.10	B366.2-356
よこはま百問: かながわ検定・横浜ライセンス受験参考問題集	かながわ検定協議会編	かながわ検定協議会	2006.12	B092.29-33
ハローバイバイ・関曉夫の都市伝説: 信じるか信じないかはあなた次第	関曉夫著	竹書房	2006.12	B049-300
新・買ってはいけない(『週刊金曜日』ブックレット/週刊金曜日編)	境野米子, 渡辺雄二著	金曜日	2005.12	B355.1-4-855
たったひとつの恋	北川悦史子原作・脚本; 豊田美加 ノベライズ	ヴィレッジブックス	2006.12	B913.6-4481
わかつく二人	三谷幸喜, 清水ミチコ著	幻冬舎	2007. 1	B914.6-2241
「続ける」技術: 「今度こそ!」本気で目標達成したい人のための : by behavior analysis	石田淳著	フォレスト出版	2006.10	B159-433
楽婚レシピ: オットと仲良く暮らすレシピ24	ほしのゆみ著	宙出版	2007. 2	B152-17
病気になるらない生き方: ミラクル・エンザイムが寿命を決める2: 実践編	新谷弘実著	サンマーク出版	2005. 7	B490-2-3297
下流志向: 学ばない子どもたち働かない若者たち	内田樹著	講談社	2007. 1	B367-1860
フィッシュストーリー	伊坂幸太郎著	新潮社	2007. 1	B913.6-4511
赤い糸(上)	メイ著	ゴマブックス	2007. 2	B913.6-1-4510
赤い糸(下)	メイ著	ゴマブックス	2007. 2	B913.6-2-4510

## 図書館の一般公開について

本学図書館は全国に先がけて地域公開を実施しておりますが、大学図書館としての高度な学術情報を本学卒業生、定年退職者、附属校生徒はもとより地域社会の市民や一般高校生に公開し生涯学習活動や教育研究などに寄与するために、今日まで公開制度を拡充してまいりました。2006年4月には一般社会人利用資格年齢を「20歳以上」から「18歳以上」に引き下げ、利用者の対象を更に広げました。利用できるサービスは次の通りです。

なお、2007年4月からは、個人情報保護法の関係で本学の卒業生に対して卒業証明書の提出を付加することになりました。

- I. 一般社会人のA会員は図書館内の各種資料が閲覧できます。また、B会員は図書館内の各種資料の閲覧ができるほか、館外への借出し（5冊、2週間）ができます。
- II. 一般高校生の利用は、図書館内の各種資料が閲覧できるほか、館外への借出し（5冊、2週間）ができます。
- III. 本学の卒業生、定年退職者、附属校生徒は、図書館内の各種資料が閲覧できるほか、館外への借出し（5冊、2週間）ができます。

登録方法や図書館内の利用方法（検索等）については、図書館ホームページおよび「利用の手引き」等でご確認ください。

## 図書館の利用案内

### 1. 春季長期貸出図書の返却について

春季長期貸出期限日は4月9日(月)です。返却がまだの方は至急返却をしてください。

### 2. 図書館利用ガイダンス

4月中旬から、在学生を対象とした図書館利用ガイダンスを実施します。詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 3. 情報リテラシーセミナーの開催

今年度も、データベースの使い方の講習を2F情報リテラシーセミナー室で開催します。詳細については、掲示および図書館ホームページをご覧ください。

### 4. グループ情報検索室の利用について

横浜図書館には、データベースやインターネットを活用しながら学習できる部屋として、グループ情報検索室があります。利用はクラスの小グループ（班）、ゼミ単位となります。利用方法の詳細については、ホームページをご覧ください。2階レファレンスカウンターにお問い合わせください。

## 書架から

戦後人々は、脇目もふらずに働いて日本は経済大国になった。しかしバブルが崩壊し、いわゆる失われた10年を経て、会社と社員の蜜月は終わった。リストラ、ニート、フリーター、格差等は現代社会を象徴する負のイメージがあるが、逆に今新しい働き方が模索されている。今まで熱にうなされるように働いてきた人が一度立ち止まって、人生の中での仕事の位置づけを見直す願ってもない機会がやってきたとも言える。本号の私がすすめる一冊で紹介している「仕事の裏切り」は、まさにその事を考える絶好の書である。過労死するほど働いて多くの“もの”を獲得してきた日本人は、ほんとうに幸せになったのだろうか。我々は「何のために働くのか」を考える時期にきている。そしてそれは「何が人生で大切なのか」、「何のために生きるのか」を考えることなのである。

(A.Y)